

高齢者介護施設の感染防止対策は万全か？

「司会のことば」

山崎 敏 立教大学コミュニティ福祉学部 兼任講師

1. テーマ設定の背景

平成17年8月31日現在、全国で特別養護老人ホームは約5500、働く職員は20数万人である。最近の介護施設運営を見ると、施設ケアから在宅ケアへの転換のなかで、施設ケアの質について評価がなされつつある。例えば、プライバシーを重視した個室、小規模でケアする介護体制が主体となりつつある。そのような状況の中、感染を含めて施設内のリスクは高まる傾向にある。食中毒による利用者の死亡、施設内感染による入院などが発生し、利用者は危険な状況にある。同時にそれが施設で働く職員への圧力ともなり、場合によれば優秀な職員が退職に追いやられるような事態にもなりかねない。職員自身の感染リスク、感染管理を怠ったことによる責任追及など、とくに都市部ではその傾向が顕著に表われるといってもよいといえる。

2. 都市型介護施設の特徴と職員へのリスク

都市型介護施設の特徴例として、本人や家族による施設への様々な要求が明確であること、自己負担・権利意識とケアの安全性に敏感であること、プライバシーに対して厳格であること、場合により法的手段も辞さない人達がいることなどがあげられる。これらは必ずしも事実と合致しているとはいきれないが、人間関係が色濃く長い歴史の中で創られたコミュニティのある地方と比べれば、都市部にはやや異なった傾向があるといえよう。全国の介護施設、とりわけ都市部の介護施設について、質のよい職員確保は喫緊の課題ともいえる。介護施設が直接的サービス業であるならば、施設運営にとって職員確保は大きな課題であり、施設の安定的継続性に大きく反映されるのである。近年の都市部における職員確保の難しさをみるにつけ、感染を含めた様々なリスクは、利用者のみならず職員の就労募集・継続に対しても大きな影響がある。厚生労働省は全国特別養護老人ホームにおける感染管理の実態調査を実施し、平成17年7月に「高齢者介護施設における感染対策マニュアル」を作成公表している。内容は、感染症の基礎知識、感染管理体制、平常時の衛生管理等から構成され、国も高齢者介護施設の感染管理に対して留意しているのがみてとれる。

3. 本テーマの論点例

本テーマの論点例は、介護施設全体のリスクとはなにか、事故が起きるときはどんな時か、感染症の種類と具体的対策、実際の感染例とその発生した内容、留意点と解決方法(だれがどこに対して何を注意すればよいのか)、職員の質の確保と研修、医療と福祉の接点はどこか等である。私自身の介護施設における近年のテーマは「守る」と考えている。利用者の人権を守る、家族の生活を守る、職員の健康や職場を守るなどである。感染も含めたりスクを検討することで、「守る」という視点をみつめたいと考える。(以上)